

心温まる墨象画の世界

# 岩本峯齊展



岩本峯齊画伯の作品には、「ふくろう」がユニークなタッチで描かれ、心をふんわり包み込む、温かな愛の言葉が添えられています。それは、語りかけるように添えられた、気負うことのない素朴な言葉だけに、見る人の心をとらえ癒してくれます。

本展では、手漉きの土佐和紙・出雲和紙などに描かれた、岩本画伯独自の墨象画40点を一堂に展示いたします。心温まる豊かな愛に満ちた墨象画の世界をお楽しみ下さい。

## 岩本峯齊プロフィール

1939年(昭和14年)大阪に生まれる。

人物画家の母の影響を受け、日本写真映像学院芸術科に入学し、卒業と同時にアートディレクターとして勤務。

1970年(昭和45年)、「墨象画」と自ら名付けた独特の芸術世界を確立する。以後、円相を基本にして、お地蔵様や観音様・ふくろうなどをモチーフに、墨と顔彩を使用して描いた作品を制作。

現在は、チャリティー美術展や福祉施設の絵画展に出品を続けながらも、新たに土佐和紙・出雲和紙に描くなど独自の世界を広げ、その癒しの作品で多くの人に安らぎを与え続けている。



「墨象画」とは…

墨と岩彩、時には金泥や金粉など、多様な画材で練り広げられる絵と、絵画的書体で書かれる「言葉」がひとつになった、岩本峯齊独自の世界です。



ふくろうは、世界中で縁起がよいとされている鳥です。日本では、「不苦労」「福籠」「福老」などの当て字を使い「招福」の象徴としたり首がまわることからお金に困らない、「商売繁盛」につながるとされています。海外でもまた「学芸と知性をつかさどる鳥(ギリシャ神話)」として登場し、智恵と信頼の象徴とされています。

日時 2013年**3月16**日(土)～**18**日(月)  
午前 9:00～午後 6:00

会場 武雄温泉 京都屋 1階 特設会場



作家来場サイン会 毎日3回 10:00 14:00 16:00